

令和6年度第2回防府市廃棄物減量等推進審議会 議事概要	
開催日時	令和6年11月14日（木） 午前10時00分～12時00分
場 所	防府市クリーンセンター 可燃ごみ処理施設2階会議室
出席者	<委 員> 土井委員（会長）、内田委員、藤井委員、松永委員、石田委員、中司委員、梅田委員、山本委員、橋口委員、阿部(新)委員（副会長）、今村委員、大嶋委員、荒瀬委員
	<行 政> （事務局） 金澤生活環境部長、廣中クリーンセンター所長、吉川所次長 松永所次長補佐、山崎庶務係長、岸本調整係長、永田主任、三輪主任
欠席者	阿部(幹)委員、國澤委員、田中委員、磯野委員、原田委員
傍聴者	

1 開会 <省略>

2 生活環境部長あいさつ <省略>

3 会長あいさつ <省略>

4 議事

（1）防府市の廃棄物処理に関する費用について

（事務局） <資料 2～13ページについて説明>

（委員）

5ページの1kgあたりの家庭ごみ処理原価は、令和5年度50.6円ということだが、将来的にごみの量が減っても、運営費が15.5億円ではほとんど変動しないのであれば、1kgあたりのごみ処理原価は上がることになるか。

6ページの燃やせるごみの処理原価とリサイクルの処理原価が令和5年度から逆転したということだが、今後この傾向は続いていくと考えているか。

12ページに各市町の指定ごみ袋の1枚あたりの単価が示してあるが、この一覧表から宇部市が抜けている理由は何か。宇部市のごみ袋は値段が高かった記憶がある。

（事務局）

1点目の処理原価については、委員が言われた通り、固定費がほぼ変わらないため、ごみの量が減ることで1kgあたりの処理原価は上昇することになる。

2点目のリサイクルの処理原価については、リサイクルは処理工程が多いため、

単純処理するよりも、人件費や物価上昇の影響を受けやすい。現状の物価等の上昇傾向が続けばリサイクルの処理原価は今後も上がっていくと考えられる。

3点目の宇部市が手数料の一覧表に入っていないことについては、宇部市は、市が決めたごみ袋の規格で事業者がごみ袋を作成し、事業者が価格を設定するという形をとっているため、比較対象にならないので記載していない。

(委員)

4ページにごみ処理経費の推移があるが、今後は、令和5年度に15.5億円かかっている経費を令和元年度の水準に下げること目標に議論していけばいいか。下がらない固定経費が大半を占めていると思うが、ごみを減らせば変動経費は下がってくると考えていいか。

(事務局)

ごみの減量が、ごみ処理施設の運営や収集体制に対してすぐに影響を及ぼすことはないと思う。ただし、ごみの量が減ることで、将来的に「収集経路を集約化することができる」、「ごみ処理施設の更新が必要になったときに、ごみの排出量や人口に応じた適正な運営に変更し、今約5億円かかっている運営費を削減することができる」ということはある。ごみの減量化はすぐに結果は出ないが、今から少しずつ進めることで将来のコストを抑えるという考え方で進んでいる。コストだけがすべての政策基準ではなく、カーボンニュートラルの推進や、地球温暖化への影響を配慮して進めることになる。

(委員)

今後、指定ごみ袋や事業系ごみの搬入の手数料を見直す方向性で考えているということだったが、防府市の手数料は他市と比較しても低い水準なので、その辺りを考慮して検討していくべきだと思う。我々市民はごみの量はどうやったら減らせるかということを引き続き考えていくべき。

(委員)

6ページのごみ処理経費の推移をみると、リサイクルの処理原価が上がってきている。ここ数年で分別する習慣は市民に根付いてきていると思う。ただ、分別すればするほどリサイクルの処理費用はかかることになる。市民は分別することで満足しているのではないかと思う。原点に戻ってごみを出さないということを改めて考えることが重要だと思う。市民にリサイクルにお金がかかることも知ってもらうことが必要。この点については啓発していくことが重要だと思う。リサイクルすることは大切だが、リサイクルすればごみを出していいと思うことはよくない。

(会長)

リサイクルも大切だが、市民一人ひとりがごみを減らしていくことで地球温暖化は防止できる。委員の皆さんが所属している団体でも改めて今委員が言われたことをPRしていくことが必要だと思う。

(委員)

12ページの他市との手数料の差が非常に興味深いと思った。他市はいつから今の値段なのか教えて欲しい。

(事務局)

他市の手数料改定のタイミングまでは調査できていない。今後、本市で手数料改定の案を作成する際には調査しようと思う。手数料改定の案は廃棄物減量等推進審議会でお示ししようと思っているので、その際、他市の改定のタイミングを合わせて示したいと思う。

(委員)

11ページを見ると、現在指定ごみ袋を作れば作るほど赤字になるという状況になっている。制度の狙いとして、市民に対する経済的インセンティブという観点があると思うが、このまま赤字の状況が続けば何のための制度か問われることになる可能性もあるということを考慮して今後の提案につなげて欲しい。

(会長)

4ページの間接処理費の中で、業務委託費の5.5億円が今後数年間は変わらない固定費という説明であったが、PFIだからということでいいか。

(事務局)

PFIで固定額+変動額という形で20年の契約をしている。

(会長)

可燃処理施設の耐用年数は20年くらいということでもいいか。

また、20年後には業務委託費が大きく上がる可能性があるということか。

(事務局)

20年は必ずもつということで契約している。

業務委託費が大きく上がる可能性はある。今後9年契約期間が残っているので、物価の変動等の影響があると思う。

(会長)

4ページのごみ処理経費の合計には自治会が行っている自主搬入に対する補助金の経費も含まれているか。

含まれている場合、自主搬入を行う地区が増えれば経費は上がるかどうか。

(事務局)

自主搬入の費用は経費の計算に含まれている。

全自治会が自主搬入を実施すれば市が収集をしなくて良くなるので経費は下がるかもしれない。逆に、全自治会が実施しない場合、市の収集を継続する必要があるの

で経費は上がる可能性がある。

(会長)

6 ページの 1 k g 当たりの処理原価については、リサイクルごみで資源物として売却した収入額を引いた数字であるか。

収入額を考慮していない場合、実際の収支計算上は記載してある数字より下がる可能性があると考えていいか。

(事務局)

処理原価を考える場合は、収入額は考慮していない。

実際の収支計算上は記載している数字より下がる可能性はある。

(会長)

手数料の改定はいつ頃行う予定か。

(事務局)

現時点で明確には決まっていないが、再来年度以降になると思う。今後の庁内での協議の方向性によって変わってくる。

(委員)

ごみステーションに出される 1 / 3 くらいが剪定ごみだと思う。剪定ごみについてどのように処理していくか考えていく必要がある。手数料改定について、仮にごみ袋の料金を上げずに、事業系の手数料のみ上げるという方向性になると、剪定業者が処理せずに、依頼者（市民）がごみ袋に入れて出すが増えるかもしれないため、ごみ袋の料金も適正な価格に変更する必要があると思う。ごみ袋小の 9 円をベースに 1 リットル当たりで計算すると大が 1 3 円、特大が 2 0 円くらいになる。いろいろなことを考慮して手数料の改定について検討して欲しい。

(会長)

可燃ごみの中では草、木が多い印象なので、これまで、大分県臼杵市の堆肥化の取組について防府市でも検討して欲しいと提案してきた。臼杵市の場合はごみの減量化の観点よりは農業振興の施策として行っている。防府市で同様に堆肥化した際に、堆肥化するための経費が堆肥を売ることによって賄えるか、農家の人が買ってくれるか等が分からない状態なので、しっかり検討しないと大赤字になる可能性もある。農業大学校で剪定木等を使った堆肥化等ができないかということも考えたらよいと思う。

(2) プラスチック資源一括回収の実証事業について

(事務局) <資料 1 4 ～ 2 2 ページについて説明>

(委員)

20ページの『対象地域』1,000世帯程度の自治会というのは、1つの自治会で1,000世帯程度世帯がある自治会か、複数の自治会で合計1,000世帯程度にするということか。

(事務局)

明確にこの地域ということはまだ決めていないので、単独の自治会で1,000世帯のところをお願いするか、複数の自治会で1,000世帯程度となるようにお願いするかは分からない。ルートの関係もあるので、単独でやれる自治会があればお願いしたいと思っている。

(会長)

1,000世帯程度の自治会は市内に4つくらいあるが、全てでやるのか、1箇所だけでやるのか。

(事務局)

世帯数として1,000と考えているので、市内で1箇所だけで行う計画である。

(委員)

20ページのべール品とはどのようなものか。

(事務局)

資料に載せている写真のものをべール品と呼んでいる。圧縮梱包してプラスチックのフィルムで包んで運べるようにしてある状態のもののこと。

(会長)

県内でこの取り組みを先行してやっている自治体はあるか。

(事務局)

県内では周南市がやっているが、再商品化するのではなく、東ソーと契約し東ソーの燃料にしているので、再商品化する取組を行うのは防府市が県内で最初の自治体となる。

(会長)

自主搬入で出てくるプラスチックのおもちゃ等の扱いはどのようなになるか。自主搬入ではなく、プラスチックの収集日にステーションに出すことになるのか。

(事務局)

自主搬入で出しているおもちゃは電池で動くような複合品が多いと思う。この事業の対象は100%プラスチック製品なので、電池で動くものは対象にならないため、今まで通り自主搬入で出して欲しい。電池等を使用していない、100%プラスチックでできているおもちゃは、プラスチックの収集日に出して欲しい。

(会長)

1 辺が 50 c m を超えるプランターや衣装ケースは対象にならないのか。

(事務局)

圧縮梱包の工程等で不具合が生じるため、50 c m を超えるものはこれまで通り粗大ごみとして出すことになる。

(委員)

切って小さくすれば出すことはできるか。

(事務局)

小さくすればプラスチックの収集日に出すことができる。

(会長)

来年の 7 月から実証事業をやるということだが、期間が 1 ヶ月というのは少し短いのではないかと感じる。実証事業での収集は 2 回くらいの予定か。

(事務局)

毎週収集するため、実証事業では 5 回収集を行う予定である。

(会長)

季節によっても出るものが変わる可能性があるので、可能であれば春夏秋冬で 1 回ずつやってみる等データを増やした方がいい気もする。出し方のルール等いろいろな想定をしておく必要がある。

(事務局)

本実施のスタート時点から最高水準で収集ができるとは思っていない。しっかり周知しながら、事業を進め、少しずつ水準を上げていきたい。

(会長)

例えば灯油缶であれば 45 L の袋に 1 つしか入らない。捨てるために袋を多く買わないといけないとなれば市民には抵抗があるかもしれない。実証事業をやると他の課題も出るかもしれないので、それを含めて本実施に向けて準備して欲しい。

(委員)

自治会を決めるときは、地域をある程度決めて交渉するのか。

既に地域をある程度決めているのであれば、12 月の自治会長の会で下話をしておくこともできる。

(事務局)

今後、収集経路も含めて選定した上で依頼したい。

(委員)

外国人が多い自治会を入れてみてもいいのでは？

(事務局)

収集経路等色々な要素が影響するので、外国人が多い自治会を優先して選ぶという事は難しいかもしれないが、選定する際の参考にさせていただく。

6 閉会